

## 第5回 いわき市台風第19号における災害対応検証委員会議事録

- 1 日時 令和2年7月10日（金） 午後1時30分～午後3時45分
- 2 場所 市役所本庁舎3階 災害対策本部会議室
- 3 出席者
  - (1) 委員 (出席：8名)  
金成克哉、鹿野義明、鎌田真理子、佐藤将文、篠原清美、杉安和也、丹野淳、福迫昌之  
※ 50音順・敬称略
  - (2) 事務局 総合政策部 山田危機管理監、鈴木次長  
危機管理課 草野課長、齊藤総括防災対策専門員、野木課長補佐、芳賀事業推進員、関本主査  
保健福祉部 保健福祉課 佐々木課長、小島係長  
土木部 河川課 小松課長、小野主幹、山野辺専門技術員  
消防本部 総務課 谷野課長、富谷統括  
警防課 鈴木課長
- 4 会議形式 非公開（冒頭のみ公開）
- 5 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) 議事
    - ア 自助・共助・公助の役割について
      - ・ 市民の役割
      - ・ 自主防災組織（地域）の役割
      - ・ 市の役割
    - イ 河川の水位情報について
    - ウ 避難所におけるペット対応について
  - (3) その他
  - (4) 閉会
- 6 議事  
台風第19号の災害対応に係る検証について  
<事務局説明>
  - 第5回いわき市台風第19号における災害対応検証委員会資料に基づき説明を行った。

<委員>

- 避難行動要支援者に対する支援について、すべて民間に任せるのではなく、自力では避難できない本当に支援が必要な方は行政が支援し、それ以外の方は地域住民同士で対応することが必要ではないか。

<事務局>

- 避難行動要支援者に対する、平時からの見守り体制を強化するとともに、地域や民間事業所等と連携を図りながら、個々の状況に応じた個別具体的な支援計画の作成促進に努める。

<委員>

- 防災士は幅広い知識が必要とされることから、平時から、市総合防災訓練への参加を通じて、様々な分野の関係者と交流する場を設けることが重要ではないか。

<事務局>

- 防災士同士のネットワークを構築するとともに、市総合防災訓練等への参加を通じて、様々な分野の関係者と交流する機会について検討する。

<委員>

- 協定先との支援内容に関して、事前に災害時を想定したシミュレーションを実施すべきではないか。

<事務局>

- 市総合防災訓練の場などを活用して事前の確認を行い、いざという時に備えた対応を進めていきたい。

<委員>

- 外国人などの要配慮者にも、災害に関する情報を的確に伝える必要があるのではないか。

<事務局>

- 外国人などの要配慮者にも災害に関する情報が伝達されるよう、多言語サイトの構築等を行うほか、わかりやすい日本語による情報提供に努める。

<委員>

- 今回のハザードマップ改訂により、避難所の見直しは行うのか。

<事務局>

- 避難所については、学校施設が多いことから、校舎の活用の可能性を検討しているところである。

#### <その他意見>

- 避難行動要支援者名簿の提供に関する同意率が低いため、行政側で住民に理解を求めていく方法を考えないといけない。
- 地区防災計画の策定を推進していく必要がある。
- 小中学生の防災教育に力を入れるべきである。
- 防災士を増やす方法の一つとして、市内の企業に対し、資格取得へのインセンティブを与えるような制度を検討してはどうか。
- 防災士のフォローアップ研修やスキルアップ研修に、気象台をはじめとして、国の機関の協力を求めてはどうか。
- 自主防災組織は重要であるため、未結成となっている地区に対し、粘り強く組織の結成を促していくべきである。
- 7月4日に開催した市総合防災訓練に関して、「もっと緊迫感のある訓練を行うべき」、「新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた分散避難という観点でも訓練を実施すべき」、「情報伝達の内容を工夫すべき」などの意見があった。

#### 7 その他

- 次回の委員会について
  - ・ 日時 令和2年8月18日（火） 14時より

#### 8 閉会